

脳神経外科専門研修 横浜市立大学プログラム

はじめに

脳神経外科診療の対象は、脳卒中（脳血管性障害）や脳神経外傷などの救急疾患、脳腫瘍に加え、てんかん・パーキンソン病・三叉神経痛・顔面けいれん等の機能的疾患、小児疾患、脊髄・脊椎・末梢神経疾患などです。脳神経外科専門医の使命は、これらの予防や診断、救急治療、手術および非手術的治療、あるいはリハビリテーションにおいて、総合的かつ専門的知識と診療技術を持ち、必要に応じて他の専門医への転送判断も的確に行うことで、国民の健康・福祉の増進に貢献することです。

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後に専門研修プログラム（以下「プログラム」という）に所属し 4 年以上の定められた研修により、脳神経外科領域の病気すべてに対して、予防や診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的知識と診療技能を、獲得します。

本文は横浜市立大学_脳神経外科専門研修プログラムの概要を示すものです。

※専門医認定要件については、日本脳神経外科学会 専門医認定制度内規（平成 27 年 10 月 13 日改正）を確認してください。

プログラムの特徴や固有の教育方針・実績など

横浜市立大学脳神経外科の研修プログラムは横浜市立大学附属病院をプログラム基幹病院として、横浜市内を主として、神奈川県及び東京都に 11 の連携施設と 22 の関連施設を有しています。これら研修施設はいずれも症例豊富であり、かつ若手医師の執刀機会が十分確保されるような構成にしています。脳腫瘍、脊髄・脊椎、小児、機能外科、血管内治療などの分野でもそれぞれ専門施設を有してことが最大の特徴で、偏りのない研修が可能となっています。各施設とも後期研修医にはマンツーマンで上級医がつき、病棟・救急の management や手術の基本を丁寧に指導する体制をとっています。手術及び入院症例については具体的には日本脳神経外科学会の専門医認定制度内規及び研修手帳に沿って、これを最低目標としています。本プログラムでは余裕をもってクリアできる見込みです。学会発表は全国学会への参加をふくめ、多くの機会に恵まれており、研修早期から論文指導も行っています。また各施設に 1 台以上、卓上顕微鏡を用意しておりマイクロ吻合練習を義務づけています。その他にも後期研修医を対象にした年 1 回の頭頸部解剖実習への参加や、教育行事やリサーチマインド啓発のため研究カンファを定期的におこない、毎年多数の方に参加いただいております。ここ数年の脳神経外科専門医取得者数は、一昨年 9 名、昨年 8 名、本年 5 名でした。プログラム参加後に派遣施設については、手術件数や症例数のみを参考にではなく、必要な研修効果が得られ、各サブスペシャリティの取得やチームをまとめるリーダーとしてのキャリア形成も意識して決定します。当プログラムは、周囲から認められ支持される医師像形成のための教育を目指しています。

問合せ先：清水 信行 045-787-2800 内線 6718

メールアドレス：nouge@med.yokohama-cu.ac.jp

2018 年 10 月

習得すべき知識・技能・学術活動

1. 脳卒中や頭部外傷などの救急疾患、また、脳腫瘍に加え、てんかんやパーキンソン病、三叉神経痛や顔面けいれん、小児奇形、脊髄、脊椎、末梢神経などの病気の予防から診断治療に至る、総合的かつ専門的知識を習得します。
2. 上記の幅広い疾患に対して、的確な検査を行い、正確な診断を得て、手術を含めた適切な治療を自ら行うとともに、必要に応じ他の専門医への転送の判断も的確に行える能力を養います。
3. 経験すべき疾患・病態および要求レベルは研修マニュアルで規定されています。管理経験症例数、手術症例数については最低経験数が規定されています。
4. 脳神経外科の幅広い領域について、日々の症例、カンファレンスなどで学ぶ以外に、文献からの自己学習、生涯教育講習の受講、定期的な研究会、学会への参加などを通じて、常に最新の知識を吸収するとともに、基礎的研究や臨床研究に積極的に関与し、さらに自らも積極的に学会発表、論文発表を行い脳神経外科学の発展に寄与することを目指します。専門医研修期間中に筆頭演者としての学会（全国規模学会）発表 2 回以上、筆頭著者として査読付論文採択受理 1 編以上（和文英文を問わない）が必須です。
5. 脳神経外科専門医習得後には、より専門性を高めるべくサブスペシャリティ獲得のため、各分野の認定医・専門医の取得を目指します。具体的には、日本脊髄脊椎外科認定医・専門医、日本脳血管内治療学会専門医、日本脳卒中の外科学会専門医、日本小児脳神経外科学会専門医、日本てんかん学会専門医、日本神経内視鏡認定医などがあります。
6. 脳神経外科専門領域の知識、技能に限らず、医師としての基本的診療能力を研修カリキュラムに基づいて獲得する必要があります。院内・院外で開催される講習会などの受講により常に医療安全、院内感染対策、医療倫理、保険診療に関する最新の知識を習得し、日常診療において医療倫理的、社会的に正しい行いを行うように努めます。

専門研修プログラムの概略

1. プログラムは、単一の専門研修基幹施設（以下「基幹施設」という）と複数の専門研修連携施設（以下「連携施設」という）によって構成され、必要に応じて関連施設（複数可）が加わります。なお専門研修は、基幹施設及び連携施設において完遂されることを原則とし、関連施設はあくまでも補完的なものです。

当プログラムの構成は以下の施設からなります。

基幹施設：横浜市立大学

連携施設：横浜労災病院、横浜南共済病院、藤沢市民病院、西新井病院、汐田総合病院、横浜市みなと赤十字病院、横浜市立大学市民総合医療センター、麻生総合病院、国際医療福祉大学熱海病院、茅ヶ崎市立病院、秦野赤十字病院

関連施設：埼玉医科大学国際医療センター、東京都立多摩総合医療センター、横須賀共済病院、湘南藤沢徳州会病院、神奈川県立がんセンター、神奈川県立足柄上病院、平塚共済病院、横須賀市立市民病院、小田原市立病院、横浜栄共済病院、横浜新都市脳神経外科病院、国立がん研究センター中央病院、神奈川県立こども医療センター脳神経外科、国立精神・神経医療研究センター、湘南鎌倉総合病院、神奈川県リハビリテーション病院、国立病院機構西新潟中央病院、あさひ病院脳神経外科、国立成育医療研究センター、虎の門病院脳神経血管内治療科、東京都立小児総合医療センター、国立病院機構横浜医療センター

2. 基幹施設における専門研修指導医に認定された脳神経外科部門長、診療責任者ないしはこれに準ずる者が専門研修プログラム統括責任者（以下「統括責任者」という）としてプログラムを統括します。当プログラムでは 山本 哲哉 です。

3. プログラム全体では規定にある以下の要件を満たしています。（別表1）

- (1) SPECT / PET 等核医学検査機器、術中ナビゲーション、電気生理学的モニタリング、内視鏡、定位装置、放射線治療装置等を有する。
- (2) 以下の学会より円滑で十分な研修支援が得られています。
 - ア 脳腫瘍関連学会合同（日本脳腫瘍学会、日本脳腫瘍病理学会、日本間脳下垂体腫瘍学会、日本脳腫瘍の外科学会）
 - イ 日本脳卒中の外科学会
 - ウ 日本脳神経血管内治療学会
 - エ 日本脊髄外科学会
 - オ 日本神経内視鏡学会
 - カ 日本てんかん外科学会
 - キ 日本定位・機能神経外科学会
 - ク 日本小児神経外科学会
 - ケ 日本脳神経外傷学会
- (3) 基幹施設と連携施設の合計で原則として以下の手術症例数を有する。
 - ア 年間500例以上（昨年手術実数 2366 ）
 - イ 腫瘍（開頭、経鼻、定位生検を含む）50例以上（昨年手術実数 396 ）
 - ウ 血管障害（開頭術、血管内手術を含む）100例以上（昨年手術実数 573 ）
 - エ 頭部外傷の開頭術（穿頭術を除く）20例以上（昨年手術実数 100 ）
4. 各施設における専攻医の数は、指導医1名につき同時に2名までです。
5. 研修の年次進行、各施設での研修目的を例示しています。
6. プログラム内での専攻医のローテーションが無理なく行えるように地域性に配慮し、基幹施設を中心とした地域でのプログラム構成を原則とし、遠隔地を含む場合は理由を記載します。
7. 統括責任者および連携施設指導管理責任者より構成される研修プログラム管理委員会を基幹施設に設置し、プログラム全般の管理運営と研修プログラムの継続的改良にあ

たります。

当プログラムでの研修年次進行パターン（別表2）

プログラム内での研修ローテーションにより到達目標の達成が可能となります。当プログラムでの代表的な年次進行パターンを以下に示します。必ずしもこの通りにはなりません。到達目標の達成が可能ないようにローテーションを組みます。また研修途中でも不足領域を補うように配慮します。

基幹施設（横浜市立大学脳神経外科）

専攻医教育の中核をなし、連携施設における研修補完を得て、専攻医の到達目標を達成させます。専攻医は基幹施設には最低6か月の在籍が義務付けられています。

基幹施設は特定機能病院または以下の条件を満たす施設です。

1. (1) 年間手術症例数（定位放射線治療を除く）が300例以上。（昨年手術数307）
- (2) 1名の統括責任者と統括責任者を除く4名以上の専門研修指導医をおく。
（指導医9：2016年2月1日現在: 4/1から6名になる予定）
- (3) 他診療科とのカンファレンスを定期的開催する。
- (4) 臨床研修指定病院であり、倫理委員会を有する。
2. 他のプログラムへの参加は、関連施設としてのみ認められており、連携施設として参加はしません。
3. 基幹施設での週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝	定例カンファレンス 教育回診	病棟回診 手術	定例カンファレンス 教育回診	病棟回診 手術	手術ビデオ カンファレンス 病棟回診
午前	外来 検査	手術	外来 検査	手術	手術 検査 外来
午後	病棟カンファレンス 病棟回診	手術		手術	手術
夕方	抄読会 後期研修レクチャー	手術 病棟回診	病棟回診	手術 病棟回診	手術 病棟回診

4. カンファレンス・院内講習会
 - i) 定例朝カンファレンス（週3回）
 - ii) 手術ビデオカンファレンス（週1回）
 - iii) 小児科脳神経外科カンファレンス（週1回）
 - iv) 神経内科脳神経外科合同カンファレンス（月1回）
 - v) 病理カンファレンス（月1回）

- vi) 頭蓋底カンファレンス (月 1 回)
- vii) 大学院生研究カンファレンス (週 1 回)
- viii) 抄読会 (週 1 回)
- ix) 医療安全講習会 (年 2 回)
- x) 感染対策講演会 (年 2 回)
- xi) 研究倫理セミナー (年 1 回)
- xii) キャンサーボード (月 1 回)
- ……xiii) 頭頸部解剖実習 (年 1 回)

連携施設 (別表 3)

基幹施設による研修を補完します。

1. 1名の指導管理責任者(専門研修指導医に認定された診療科長ないしはこれに準ずる者)と2名以上の専門研修指導医をおいています。ただし、指導管理責任者と指導医の兼務は可です。症例検討会を開催し、指導管理責任者は当該施設での指導体制、内容、評価に関し責任を持ちます。指導管理責任者、専門研修指導医からなる連携施設研修管理委員会を設置し、専攻医の教育、指導、評価を行うとともに、指導者間で情報を共有し施設内での改善に努めます。
2. 他の研修プログラムへの参加は関連施設としてのみ認められ、複数の研修プログラムに連携施設として参加することはできません。
3. 連携施設は年次報告を義務付けられ、問題点については改善勧告が行われます。

関連施設 (別表 3)

1. 統括責任者が、基幹施設および連携施設だけでは特定の研修が不十分と判断した場合、或いは地域医療の不足部分を補完するためにその責任において指定します。
2. 関連施設の要件は特に定めていませんが、関連施設での研修は原則として通算1年を超えないものとします。

研修の休止・プログラム移動

疾病、出産、留学、地域診療専念などの理由により、専門研修は専攻医・統括責任者の判断により休止・中断は可能です。中断・休止期間は研修期間から原則として除かれます。研修期間4年間のうち脳神経外科臨床専従期間が3年以上必要であり、神経内科学、神経放射線学、神経病理学、神経生理学、神経解剖学、神経生化学、神経薬理学、一般外科学、麻酔学等の関連学科での研修や基礎研究・留学は1年を限度に専門研修期間として領域研修委員会(専門医認定委員会)により認めることができます。

プログラム間の移動も専攻医、統括責任者の合意の上、領域研修委員会(専門医認定委員会)により認めることが可能です。

プログラムの管理体制

1. プログラム責任者（基幹施設長）、連携施設長から構成される研修プログラム管理委員会を設け、プログラムの管理運営にあたります。研修プログラム管理委員会は専攻医の専門研修について随時管理し、達成内容に応じた適切な施設間の異動を図ります。また、各研修施設における指導体制、内容が適切かどうか検討を行い、指導者、専攻医の意見をもとに継続的にプログラム改善を行います。また、各連携施設においては施設長、指導医から構成される連携施設研修管理委員会を設置し施設での研修について管理運営を行います。
2. 専攻医は研修プログラム、指導医についての意見を研修管理プログラムに申し出ることができます。研修終了時には総括的意見を提出しプログラムの改善に寄与します。研修プログラム管理委員会は専攻医から得られた意見について検討し、システム改善に活用していきます。
3. プログラム責任者は専攻医の良好な勤務環境が維持されるように配慮しています。労働環境、勤務時間、待遇などについて専攻医よりの直接ヒアリングを行い、良好な労働環境が得られていることを確認します。

専攻医の評価時期と方法

1. 研修年度ごとに、指導医・在籍施設の責任者が専攻医の経験症例、達成度、自己評価を確認し研修記録帳に記入します。研修プログラム管理委員会はこれをもとに不足領域を補えるように施設異動も含めて配慮します。
2. 研修年度ごとに、アンケート形式による研修への自己評価および研究状況報告を行います。
3. 研修修了は、プログラム責任者（基幹施設長）が、経験症例、自己評価などをもとに、技術のみでなく知識、技能、態度、倫理などを含めて総合的に研修達成度を評価します。研修態度や医師患者関係、チーム医療面の評価では、他職種の見解も参考にします。

以上

(別表1)

○:ある ×:なし 数字:人数

1. 設備状況

設備	基幹施設	基幹+連携施設
SPECT	○	○
PET	○	○
ナビゲーション	○	○
電気生理モニタリング	○	○
神経内視鏡	○	○
定位手術装置	×	○
放射線治療装置	○	○
その他特殊装置があれば名称記載		

2. 関連学会認定医数等

(人)

専門医名/認定医名	基幹施設	基幹+連携施設 合計数
日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医	5	19
日本脳神経血管内治療学会認定 専門医	1	5
日本脳神経血管内治療学会認定 指導医	1	2
日本脊髄外科学会 脊髄外科認定医	2	5
日本脊髄外科学会 指導医	1	1
日本神経内視鏡学会 技術認定医	2	3
日本てんかん学会 専門医	1	0
日本定位・機能神経外科学会 技術認定医	0	1
日本定位・機能神経外科学会 施設認定		0

研修進行計画書

パターン	研修年次	施設名	主たる研修内容
A	1	横浜市立大学附属病院	頭蓋底腫瘍、悪性脳腫瘍、脊髄脊椎、脳血管障害
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	頭蓋底腫瘍、機能外科、脳血管障害、脳血管内治療、救命救急
	2	神奈川県立こども医療センター	先天奇形、小児脳神経外科一般
		神奈川県立がんセンター	悪性脳腫瘍
	3	横浜労災病院	脳外科一般、脳血管障害、脳腫瘍、定位放射線治療
	4	横浜市みなと赤十字病院	脳外科一般、脳血管障害、頭部外傷
B	1	横浜市立大学附属市民総合医療センター	頭蓋底腫瘍、機能外科、脳血管障害、脳血管内治療、救命救急
		横浜市立大学附属病院	頭蓋底腫瘍、悪性脳腫瘍、脊髄脊椎、脳血管障害
	2	平塚共済病院	脳外科一般、脳血管障害、脳血管内治療、頭部外傷
	3	西新井病院	脳外科一般、脳血管障害、頭部外傷、脊髄脊椎
	4	埼玉医科大学国際医療センター	脳外科一般、脳血管障害
C	1	神奈川県立足柄上病院	脳外科一般、脳血管障害、頭部外傷、脊髄脊椎
	2	横浜市立大学附属病院	頭蓋底腫瘍、悪性脳腫瘍、脊髄脊椎、脳血管障害
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	頭蓋底腫瘍、機能外科、脳血管障害、脳血管内治療、救命救急
	3	横浜南共済病院	脳外科一般、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷
	4	国立成育医療センター	先天奇形、小児脳神経外科一般

専門研修施設群の構成

(別表3)

専門領域名： 脳神経外科

専門研修プログラム名称：横浜市立大学大学院医学研究科脳神経外科

専門研修基幹施設

名称	施設としての主な研修担当分野※1	専門研修プログラム統括責任者名	専門研修指導医数	学会登録施設番号
横浜市立大学附属病院脳神経外科	1, 2, 3, 4, 5	山本 哲哉	9	33

- ※1 「施設としての主な担当分野」
 1:腫瘍 2:脳血管障害 3:外傷 4:脊椎・脊髄 5:小児 6:機能 7:地域医療 8:その他
- ※2 「関連施設とする目的」
 11:腫瘍 12:脳血管障害 13:外傷 14:脊椎・脊髄 15:小児 16:機能 17:地域医療 18:その他
- ※3 「専門研修プログラム施設責任者名」 (脳神経外科領域の専門研修責任者)
- ※4 関連施設の場合は「関連施設」欄に○

専門研修連携施設・関連施設

No.	名称	施設としての主な研修担当分野※1 (連携施設の場合) 関連施設とする目的※2 (関連施設の場合)	専門研修プログラム施設責任者名※3	専門研修指導医数 (連携施設のみ入力)	学会登録施設番号	関連施設※4
1	横浜労災病院脳神経外科	1,2,3,7	周藤 高	3	298	
2	横浜南共済病院脳神経外科	1,2,3,7	浅田 裕幸	2	317	
3	藤沢市民病院脳神経外科	2,3,4,7	向原 茂雄	2	342	
4	西新井病院脳神経外科	2,3,4,7	山村 浩司	2	1421	
5	汐田総合病院脳神経外科	2,3,7	小澤 仁	2	1599	
6	横浜市みなと赤十字病院脳神経外科	2,3,7	竹本 安範	3	1895	
7	横浜市立大学附属市民総合医療センター脳神経外科	1,2,3,4,6	坂田 勝己	4	1974	
8	麻生総合病院脳神経外科	2,3,7	川口 正二郎	2	2280	
9	茅ヶ崎市立病院脳神経外科	1,2,3,7	横山 高玲	2	6813	
10	国際医療福祉大学熱海病院脳神経外科	2,3,4,7	篠永 正道	2	7996	
11	埼玉医科大学国際医療センター脳神経外科	11,12	西川 亮		14	○
12	東京都立多摩総合医療センター脳神経外科	11,12,13	太田 貴裕		176	○
13	横須賀共済病院脳神経外科	11,12,13,17	田中 良英		187	○
14	湘南藤沢徳州会病院脳神経外科	11,12,13,17	遠藤 昌孝		302	○
15	横浜栄共済病院脳神経外科	12,13,17	北村 佳久		367	○
16	横浜新都市脳神経外科	12,13,17	森本 将史		375	○
17	国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科	11	成田 善孝		1335	○
18	神奈川県立足柄上病院脳神経外科	3,4,7	濱田 幸一		1342	○

専門研修連携施設・関連施設

No.	名称	施設としての主な研修担当分野※1（連携施設の場合） 関連施設とする目的※2（関連施設の場合）	専門研修プログラム施設 責任者名※3	専門研修指導医 数（連携施設のみ入力）	学会登録 施設番号	関連施設 ※4
19	国立病院機構横浜医療センター	11,12,13,17	宮原 宏輔		1343	○
20	神奈川県立こども医療センター脳神経外科	15	伊藤 進		1466	○
21	秦野赤十字病院脳神経外科	12,13,17	波良 勝裕		1468	○
22	亀田総合病院脳神経外科	11,12,13,14	波出石 弘		1502	○
23	国立精神・神経医療研究センター脳神経外科	16	大槻 泰介		1835	○
24	湘南鎌倉総合病院脳神経外科	12,13,14,17	権藤 学司		1907	○
25	神奈川リハビリテーション病院脳神経外科	18	佐藤 博信		1947	○
26	平塚共済病院脳神経外科	11,12,13,17	小島 昭雄		1990	○
27	国立病院機構西新潟中央病院脳神経外科	16	福多 真史		2201	○
28	東京都立小児総合医療センター脳神経外科	15	井原 哲		5217	○
29	あさひ病院脳神経外科	12,13,17	藤井 聡		7197	○
30	国立成育医療研究センター脳神経外科	15	荻原 英樹		7246	○
31	虎の門病院脳神経血管内治療科	12	鶴田和太郎		7460	○
32	小田原市立病院脳神経外科	1,2,3,7	山中 裕路		1541	○
33	横須賀市立市民病院脳神経外科	1,2,3,7	吉田 俊		1545	○
34	神奈川県立がんセンター脳神経外科	1	佐藤 秀光		1664	○